

# 航の治療体験

レポート：あめのひかり



実は、航も、アトピーに関連がある、「貨幣用湿疹」で悩まされた時期がありました。一か月たっても消えない、コイン状の腫れが、からだのあちこちに増えていくので、驚いて受診した際、初めて聞いた名前でした。

それから、抵抗を感じつつも、ステロイドを使用し、取りあえず、治まりました。

しかし、風邪をひくたびに、気管支炎、気管支ぜんそく、を繰り返し、アレルギーマーチという言葉を知り、その時、かかりつけの医師によると、近い将来、喘息と花粉症に悩まされるかもしれない、と。正式にアレルギー科を受診してくださいとのこと。

私自身も、かなりのアレルギー体質なので、自分でもいろいろ調べていました。

航が2歳頃、知人の紹介で、あるアレルギー科を受診しました。

そこで、とっても面白い医師に出会いました。

その先生が、診察する曜日は、待合室は、アトピーの子供とお母さんで、込み合っていました。中には、真っ赤にただれた皮膚の生後半年くらいの赤ちゃんもいました。

普通の診療は行わず、診察は筋肉反射による「リングテスト」で行います。

リングテストとは？

正式にはBi-Digital O-Ring Testと呼ばれる方法です。

大村恵昭教授の考案による新しい診断法と治療です。

圧や電磁場などによる微小な刺激を自分の脳が、判断し、それが、筋肉反射として、現れたものを読み取る方法です。

具体的には、調べられる人が片手の2本の指で0の字の輪をつくり、

もう片方の手で、アレルギー反応の対象となるものを持ち、

それを調べる人は、その輪を毎回同じ力で開こうとし、その強さを判定する、といったものです。

開かれまいと抵抗する指の筋力の変化を読み取ることによって、脳が判断した情報を引き出します。

診察室で待つ間、航と遊び始めた男の子の、お母さんが、その子の

お姉ちゃんのアトピー歴を話し始めました。

「今、10歳の上のお姉ちゃんが、6歳の時に、ここに来た。もうここで7件目。藁にもすがる思いでした。」と。診察を終えたその子は、看護婦さんに注射を頑張ったご褒美にシールを貰って喜んでいました。肌はピカピカ。とってもきれいで、重度のアトピーとは思えません。

「先生の指示は大変だったけど、今は感謝している」と。

航と私の番です。

子どもにオーリングテストは通用するのかと思っていたら、

「お母さんが子供さんを抱っこしたまま、お母さんの手で行います」

そして、私の手で行っても、航と私の検査結果は違いました。

\*主な指導は、食事療法です。

その少し前から、我流で玄米採食を行っていましたが、

新たに参考になるお話もたくさん聞けました。

そして、血液検査による抗体反応を検査しながら、食事療法を続け

る、というものでした。

一年近く通った頃、航のアレルギー抗体反応は消えました。

(花粉の時期でもあり、私はひどいままで・・・^^ ;)

その後、予防接種に含まれる水銀がアレルギーの一因かもしれないと知り、ホメオパシーに通い、航の体内に蓄積された、化学物質を排出するため、そちらにも一年ほど通いました。

4年が経過し、今のところ、「貨幣用湿疹」は再発はしておりませんが、風邪をひくと、すぐに肺がゼロゼロしてしまうので、今でも、なるべくオーガニックのものを、そして、せっけんやシャンプーや、洗剤から、吸収される経皮毒にも、神経質にならない程度に、配慮しています。

.....